

ソフトウェアマニュアル
オプション

HIDIC
S10 シリーズ

J.NET
For Windows®

2α
S10mini
シリーズ

対象機種

HIDIC-S10/2	NESP-S25E
HIDIC-S10/2 E	NESP-2 E
HIDIC-S10/2 H	NESP-2 H
HIDIC-S10/2 Hf	NESP-2 Hf
S10mini モデルS	
S10mini モデルH	
S10mini モデルF	
S10mini モデルD	

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。
なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問合わせください。

1997年12月 (第1版) SAJ - 3 - 146 (A) (廃版)
1999年10月 (第2版) SAJ - 3 - 146 (B) (廃版)
2001年 1月 (第3版) SAJ - 3 - 146 (C) (廃版)
2003年 5月 (第4版) SAJ - 3 - 146 (D)

このマニュアルの一部、または全部を無断で転写したり複写することは、固くお断りいたします。
このマニュアルの内容を、改良のため予告なしに変更することがあります。



安全上のご注意

システムの構築やプログラムの作成などは、このマニュアルの記載内容をよく読み、書かれている指示や注意を十分理解してから行ってください。誤操作により、システムが故障することがあります。

このマニュアルは、必要なときすぐに参照できるよう、手近なところに保管してください。このマニュアルの記載内容について疑問点または不明点がございましたら、最寄りの当社営業またはSEまでお知らせください。

お客様の誤操作に起因する事故発生や損害については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

当社提供ソフトウェアを改変して使用した場合に発生した事故や損害については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

当社提供以外のソフトウェアを使用した場合の信頼性については、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

ファイルのバックアップ作業を日常業務に組み入れてください。ファイル装置の障害、ファイルアクセス中の停電、誤操作、その他何らかの原因によりファイルの内容を消失することがあります。このような事態に備え、計画的にファイルのバックアップを取っておいてください。

当社製品が故障や誤動作したりプログラムに欠陥があった場合でも、使用されるシステムの安全が十分に確保されるよう、保護・安全回路は外部に設け、人身事故や重大な災害に対する安全対策が十分確保できるようなシステム設計としてください。

非常停止回路、インタロック回路などはPLCの外部で構成してください。PLCの故障により、機械の破損や事故の恐れがあります。

運転中のプログラム変更、強制出力、RUN、STOPなどは十分安全を確認してから行ってください。誤操作により、機械の破損や事故の恐れがあります。

はじめに

J.NETシステムをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

このシステムは、パーソナルコンピュータ上で動作し、J.NETモジュールに対する各種セットアップ処理を実行します。

このマニュアルは、J.NETシステムにおける操作方法について記述してあります。

このマニュアルは、下記バージョンのシステムに対応しています。

システム名称およびバージョン
J.NETシステム For Windows® 07-02

バージョン05-00以前のシステムは、Microsoft® Windows® 98 operating systemに対応していません。

Microsoft® Windows® 95 operating systemのみの対応となります。

J.NETモジュールについては、下記マニュアルを参照してください。下記マニュアルは、モジュールに添付して納品されます。

< 関連マニュアル >

- ・ハードウェアマニュアル オプション J.NET (マニュアル番号 SAJ-2-121)
- ・S10miniハードウェアマニュアル オプション J.NET (マニュアル番号 SMJ-1-104)
- ・S10miniハードウェアマニュアル オプション J.NET-INT (マニュアル番号 SMJ-1-107)

NESP (Nissan Electronic Sequence Processor) シリーズは、下記の対応を参照のうえ使用してください。

【HIDIC-S10 シリーズ】	【NESPシリーズ】
HIDIC-S10/2 NESP-S25E
HIDIC-S10/2 E NESP-2 E
HIDIC-S10/2 H NESP-2 H
HIDIC-S10/2 Hf NESP-2 Hf

< 商標について >

- ・Microsoft® Windows® operating system, Microsoft® Windows® 95 operating system, Microsoft® Windows® 98 operating system, Microsoft® Windows® 2000 operating system, Microsoft® Windows® XP operating systemは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
 - ・Ethernetは米国Xerox Corp.の登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

Windows® 2000, Windows® XP対応システムについて

Microsoft® Windows® 2000 operating system (以降、Windows® 2000と略します。), Microsoft® Windows® XP operating system (以降、Windows® XPと略します。)対応のシステムは、下記一覧のとおりです。

下記一覧のバージョンより古いバージョンのシステムは、Windows® 2000, Windows® XPに対応していませんので、Microsoft® Windows® 95 operating system (以降、Windows® 95と略します。), Microsoft® Windows® 98 operating system (以降、Windows® 98と略します。)のみの対応となります。(下記一覧のシステム名は、以降、各システムと略します。)

< Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧 >

No.	システム名	型式	バージョン	Windows® 2000	Windows® XP
1	S10Toolsシステム	S-7890-01	07-05		
2	ラダー図システム	S-7890-02	07-05		
3	HI-FLOWシステム	S-7890-03	07-02		
4	CPMSロードシステム	S-7890-04	07-04		
5	CPMSEロードシステム	S-7890-05	07-04		
6	CPMSデバッグシステム	S-7890-06	07-02		
7	CPMSEデバッグシステム	S-7890-07	07-02		
8	GP-IBロードシステム	S-7890-08	07-01		
9	一括セーブ/ロードシステム	S-7890-09	08-01		
10	RPDP/S10 SYSTEM	S-7891-10	03-03	(*2)	× (*1)
11	NX/ACP-S10	S-7891-11	01-02	(*2)	× (*1)
12	NX/Ladder	S-7891-12	02-01	(*2)	× (*1)
13	NX/Tools-S10システム	S-7890-13	07-02		
14	NX/HOST-S10	S-7890-14	07-01		
15	4 ラダー図システム	S-7890-17	07-05		
16	4 Hラダー図システム	S-7890-18	07-05		
17	ラダー図コメントコンバータシステム	S-7890-19	06-01		
18	H7338サポートシステム	S-7890-20	07-01		
19	高速リモートI/Oシステム	S-7890-21	07-01		
20	CPU間リンクシステム	S-7890-22	07-01		
21	4チャンネルアナログパルスカウンタシステム	S-7890-23	07-01		
22	外部機器リンクシステム	S-7890-24	07-02		
23	S10ET LINKシステム	S-7890-25	07-02		
24	J.NETシステム	S-7890-27	07-02		
25	OD.RING/SD.LINKシステム	S-7890-28	07-03		
26	ET.NETシステム	S-7890-29	07-01		
27	FL.NETシステム	S-7890-30	07-03		
28	D.NETシステム	S-7890-31	07-04		
29	BSCシステム	S-7890-32	07-01		
30	HDLCシステム	S-7890-33	07-01		
31	モニタ専用ラダー図システム	S-7890-34	07-04		
32	モニタ専用HI-FLOWシステム	S-7890-35	07-01		
33	IR.LINKシステム	S-7890-36	07-02		
34	クロスCコンパイラ (マター・グラフィックス・ジャパン株式会社製)	MCP68K	5.3	(*2)	× (*1)

: 対応、× : 非対応

(*1) クロスCコンパイラ (No.34) は、Windows® XPに非対応のため、Windows® 2000で使用してください。

(*2) クロスCコンパイラ (No.34) は、Windows® 2000対応版 (バージョン5.3以降) が前提です。

<用語の定義>

- Nコイル : パソコン上に表示されたシートにシンボルを貼り付け、PCs上で実行できる形態に変換したラダープログラムです。
- プロセス : パソコン上に表示されたシートにシンボルを貼り付け、PCs上で実行できる形態に変換したHI-FLOWプログラムです。
- コンパイル : ラダー図やHI-FLOWのアプリケーションプログラムをPCsで実行できる形態（Nコイル、プロセスなど）に変換します。
- ビルド : 修正したアプリケーションプログラムのみコンパイルします。
- リビルド : 存在するすべてのアプリケーションプログラムをコンパイルします。
- シート : ラダー図やHI-FLOWのアプリケーションプログラムなどを作成するための用紙で、パソコン上で管理します。
- PCs : Programmable Controllersの略です。
S10 およびS10miniシリーズ等のPLCの総称です。
- PLC : Programmable Logic Controllerの略です。
プログラム内蔵方式でシーケンス制御をする工業用電子装置です。
S10 およびS10miniシリーズ等もPLCに該当します。

<記憶容量の計算値についての注意>

2ⁿ計算値の場合（メモリ容量・所要量、ファイル容量・所要量など）

1KB（キロバイト）= 1,024バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）= 1,048,576バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）= 1,073,741,824バイトの計算値です。

10ⁿ計算値の場合（ディスク容量など）

1KB（キロバイト）= 1,000バイトの計算値です。

1MB（メガバイト）= 1,000²バイトの計算値です。

1GB（ギガバイト）= 1,000³バイトの計算値です。

目 次

1	ご使用にあたり	1
1.1	システムの概要	2
1.2	必要なハードウェアとソフトウェア	2
2	システムインストール	5
2.1	インストール	6
2.2	アンインストール	7
2.3	システム立ち上げ	8
2.4	システム終了	9
3	コマンド	11
3.1	コマンド体系	12
3.2	メインモジュール編集	13
3.2.1	システム情報編集	14
3.2.2	NET1情報編集	15
3.2.3	NET2情報編集	18
3.3	サブモジュール編集	18
3.4	FD機能	18
3.4.1	メインモジュール情報保存	19
3.4.2	サブモジュール情報保存	19
3.4.3	送信	20
3.4.4	比較	22
3.5	ユーザ演算ファンクション登録	23
3.6	リフレッシュサイクルモニタ	24
3.7	メインモジュールエラー情報表示	25
3.7.1	モジュールエラー	25
3.7.2	ステーションエラー	26
3.8	サブモジュールエラー情報表示	26
3.9	接続PCs変更	27

目 次

図 2 - 1	[J.NET] 画面	9
図 3 - 1	[編集] 画面	13
図 3 - 2	[J.NET] ダイアログボックス (奇数バイト設定エラー)	14
図 3 - 3	[システム情報編集] 画面	14
図 3 - 4	[確認] 画面と [情報編集] 画面	15
図 3 - 5	[編集] 画面	16
図 3 - 6	[スロット情報設定] 画面	17
図 3 - 7	[伝送フレーム] 画面	17
図 3 - 8	[F/D] 画面	18
図 3 - 9	[ファイル名を付けて保存] 画面	19
図 3 - 10	[ファイルを開く] 画面	20
図 3 - 11	[ファイル送信] 画面 (システム情報送信中)	21
図 3 - 12	[J.NET] ダイアログボックス (奇数バイト送信未サポートエラー)	21
図 3 - 13	[演算ファンクションテーブル] 画面	23
図 3 - 14	[設定] 画面	23
図 3 - 15	[リフレッシュサイクルモニタ] 画面	24
図 3 - 16	[エラー情報] 画面	25
図 3 - 17	[モジュールエラー] 画面	25
図 3 - 18	[ステーションエラー] 画面	26
図 3 - 19	[通信種類] 画面 (接続PCs変更)	27
図 3 - 20	[通信種類] 画面 (RS-232Cポート選択)	27
図 3 - 21	[通信種類] 画面 (イーサネット接続)	27
図 3 - 22	[通信種類] 画面 (GPIB接続)	28

表 目 次

表 3 - 1 J.NETモジュール奇数バイト設定サポートバージョン・レビジョン	13
表 3 - 2 奇数バイト送信可能なJ.NETモジュールバージョン・レビジョン	21

1 ご使用にあたり

1 ご使用にあたり

このマニュアルは、Windows®パソコンプログラミングのユーザを対象としています。

1. 1 システムの概要

J.NET For Windows® (以降、J.NETと略します。)は、Windows®アプリケーションと等価なオペレーションにより、HIDIC-S10 シリーズおよびS10miniシリーズJ.NETモジュールのシステム情報編集、NET情報編集、リフレッシュサイクルモニタおよびユーザ演算ファンクションの登録をします。

1. 2 必要なハードウェアとソフトウェア

各システムを使用するためには、以下のハードウェアおよびソフトウェアが必要です。

<パーソナルコンピュータ(以降、パソコンと略します。)>

項目	OS	Windows® 95 (*1)	Windows® 2000 (*1)	Windows® XP (*1)
		Windows® 98 (*1)		(*2)
CPU		Pentium 133MHz以上	Pentium 300MHz以上	
メモリ (RAM)		32MB以上	64MB以上	128MB以上
空きハードディスク容量 (*3)		20MB以上 / システム (ただし、OSロード、オプションモジュールソフトウェアは、10MB以上 / システム)		
FDドライブ		1台以上 (FDにてソフトウェアをインストールする場合に必要)		
CD-ROMドライブ		1台以上 (CD-ROMにてソフトウェアをインストールする場合に必要)		
イーサネット (10BASE-T)		1ポート以上 (パソコンとET.NETモジュールを接続する場合に必要)		
シリアル (D-sub9ピン)		1ポート以上 (PCsとパソコンをRS-232C接続する場合、またはET.NETモジュールにIPアドレスを設定する場合に必要)		
PCカード (PC Card Standard (JEITA V4.2) 準拠TYPE またはTYPE)		1スロット以上 (パソコンとパラレルインタフェースモジュール (LWZ400) を接続する場合、下記GP-IBカードと共に必要) GP-IBカード: PCMCIA-GPIB (型番: 777438-02) (日本ナショナルインスツルメンツ株式会社製)		
ディスプレイ		800 × 600ピクセル以上の解像度		
Microsoft® Internet Explorer		バージョン4.01以降		

(*1) OSのサービスパックはソフトウェア添付資料を参照してください。

(*2) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 34を除きます。

(*3) 各システムをインストールするために必要な容量です。さらにユーザプログラム保存用の空き容量が必要です。

< パソコン以外のハードウェア >

- ・ HIDIC-S10シリーズCPU (2、2 E、2 H、2 Hf) およびS10miniシリーズCPU
- ・ HIDIC-S10シリーズ電源およびS10miniシリーズ電源
- ・ HIDIC-S10シリーズバックボードおよびS10miniシリーズバックボード
- ・ パソコンとPCs間接続ケーブル
- ・ 必要に応じたりモートI/Oステーション、電源、バックボード、カードおよび配線ケーブル

留意事項
この製品を使用するユーザは、Windows®環境およびユーザインタフェースについての知識が必要です。このシステムは、Windows®標準に従っています。このマニュアルは、基本となるWindows®の使用法を習得しているユーザを対象にして記述されています。

パソコン設定上の注意
サスペンド機能を持ったパソコンを使用する場合は、サスペンド機能をOFFにしてください。このシステムを実行中にサスペンド機能が動作すると、正常に動作しないことがあります。

2 システムインストール

2 システムインストール

2. 1 インストール (*)

まず、お手元のCDが正しいものか確認してください。

各システムをインストールするには、システムのCDのDISK1フォルダに格納されているSetup.exeをダブルクリックします。インストール後、インストールしたプログラムの画面は表示されません。

なお、各システムをインストールするためには、Microsoft® Internet Explorer 4.01以降をインストールしておいてください。もし、インストールされていない場合は、インストール後に各システムをインストールしてください。

注 意

各システムを動作させるためには、Microsoft® Internet Explorer 4.01以降をインストールしておいてください。インストールされていない場合、各システムが正常に動作しません。各システムをインストールする前に、すべてのWindows®プログラムを必ず終了してください。ウイルス監視ソフトウェアなどメモリに常駐しているプログラムも必ず終了してください。終了せずにインストールすると、エラーが発生する場合があります。その場合は、「2. 2 アンインストール」を参照して、一旦システムをアンインストールし、すべてのWindows®プログラムを終了してから、再度各システムをインストールしてください。Windows® 2000を使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「Administrator」または「Administratorsグループに属するユーザ」としてください。Windows® XPを使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「コンピュータの管理者」としてください。「制限付きアカウント」では各システムが正常に動作しません。

(*) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

2. 2 アンインストール(*)

バージョンアップ時などのアンインストールは、以下の手順で行います。

(1) Windows® 95, Windows® 98からのアンインストール

[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル]を開きます。[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックし、[セットアップと削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

(2) Windows® 2000からのアンインストール

[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル]を開きます。[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリック(または[スタート]メニューの[設定] - [コントロールパネル] - [アプリケーションの追加と削除]をクリック)し、[プログラムの変更と削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

(3) Windows® XPからのアンインストール

[スタート]メニューの([設定] -) [コントロールパネル]を開きます。[プログラムの追加と削除]をダブルクリック(または[スタート]メニューの([設定] -) [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除]をクリック)し、[プログラムの変更と削除]タブで「各システム」を選択し、 ボタンをクリックします。[ファイル削除の確認]画面が表示されますので、 ボタンをクリックします。

デスクトップ等に、各システム実行ファイルのショートカットを作成した場合は、そのショートカットを削除してください。

注 意

Windows®でアンインストール中に[共有ファイルを削除しますか?]画面が表示された場合は、 ボタンをクリックして共有ファイルを削除しないでください。

Windows® 2000を使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「Administrator」または「Administratorsグループに属するユーザ」としてください。

Windows® XPを使用してインストールおよびアンインストールする場合は、ログオンするユーザのアカウントを「コンピュータの管理者」としてください。

Windows® 2000を使用してアンインストール時、[アプリケーションの追加と削除]画面がロック(操作不能)状態となった場合は、Windows®の[スタート]メニューの[シャットダウン]から一旦ログオフし、再度[Windowsへログオン]画面にてログオンしてください。

(*) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

2 システムインストール

2.3 システム立ち上げ(*)

(1) 各システムでインストールされるシステムは、Windows®の[スタート]メニューに自動的に登録されます。この[スタート]メニューから、[(すべての)プログラム] - [Hitachi S10] - 「各システム」を選択して起動してください。

各システムをインストール時にログオンしたユーザ名と、各システムを起動するユーザ名が異なる場合、各システムが[スタート]メニューに表示されません。その場合は、下記の各システムの実行ファイル(拡張子.exe)のショートカットをデスクトップ等に作成し、そのショートカットをダブルクリックして各システムを起動してください。

<実行ファイル格納ディレクトリー一覧>

No.	システム名	型式	実行ファイル格納ディレクトリ(*1)	実行ファイル名
1	S10Toolsシステム	S-7890-01	C:\¥Hitachi¥S10	S10Ladder.exe S10Tool.exe
2	ラダー図システム	S-7890-02	C:\¥Hitachi¥S10¥2ALDC	S10Ladder.exe
3	HI-FLOWシステム	S-7890-03	C:\¥Hitachi¥S10¥HF	S10Tool.exe
4	CPMSロードシステム	S-7890-04	C:\¥Hitachi¥S10¥CPMS	Cpms.exe
5	CPMSEロードシステム	S-7890-05	C:\¥Hitachi¥S10¥CPMSE	Cpmse.exe
6	CPMSデバッグシステム	S-7890-06	C:\¥Hitachi¥S10¥DEBUG	Debugger.exe
7	CPMSEデバッグシステム	S-7890-07	C:\¥Hitachi¥S10¥DEBUGE	DebuggerE.exe
8	GP-IBロードシステム	S-7890-08	C:\¥Hitachi¥S10¥GPIB	Gpib.exe
9	一括セーブ/ロードシステム	S-7890-09	C:\¥Hitachi¥S10¥BACKUP	SysAllSaveLoad.exe
10	NX/Tools-S10システム	S-7890-13	C:\¥Hitachi¥S10¥NX	NXTool.exe
11	4 ラダー図システム	S-7890-17	C:\¥Hitachi¥S10¥4ALDC	S10Ladder_4A.exe
12	4 Hラダー図システム	S-7890-18	C:\¥Hitachi¥S10¥4AHLDC	S10Ladder_4AH.exe
13	ラダー図コメントコンバータシステム	S-7890-19	C:\¥Hitachi¥S10¥CFCONV	Cfconv.exe
14	H7338サポートシステム	S-7890-20	C:\¥Hitachi¥S10¥H7338	H7338.exe
15	高速リモートI/Oシステム	S-7890-21	C:\¥Hitachi¥S10¥HISRIO	HiSpeedRIO.exe
16	CPU間リンクシステム	S-7890-22	C:\¥Hitachi¥S10¥CPULINK	CpuLink.exe
17	4チャンネルアナログパルスカウンタシステム	S-7890-23	C:\¥Hitachi¥S10¥ANALOG	AnalogPuls.exe
18	外部機器リンクシステム	S-7890-24	C:\¥Hitachi¥S10¥EXLINK	ExLink.exe
19	S10ET LINKシステム	S-7890-25	C:\¥Hitachi¥S10¥ETLINK	EtherNet.exe
20	J.NETシステム	S-7890-27	C:\¥Hitachi¥S10¥JNET	JNet.exe
21	OD.RING/SD.LINKシステム	S-7890-28	C:\¥Hitachi¥S10¥ODRING-SDLINK	ODRing.exe
22	ET.NETシステム	S-7890-29	C:\¥Hitachi¥S10¥ETNET	Et_Net.exe
23	FL.NETシステム	S-7890-30	C:\¥Hitachi¥S10¥FLNET	FLnet.exe
24	D.NETシステム	S-7890-31	C:\¥Hitachi¥S10¥DNET	DNet.exe
25	BSCシステム	S-7890-32	C:\¥Hitachi¥S10¥BSC	BSC.exe
26	HDLCシステム	S-7890-33	C:\¥Hitachi¥S10¥HDLC	HDLC.exe
27	モニタ専用ラダー図システム	S-7890-34	C:\¥Hitachi¥S10¥2ALDCM	S10LadderM.exe
28	モニタ専用HI-FLOWシステム	S-7890-35	C:\¥Hitachi¥S10¥HFM	S10ToolM.exe
29	IR.LINKシステム	S-7890-36	C:\¥Hitachi¥S10¥IRLINK	IrLink.exe

(*1) インストール先ドライブ名が「C」の場合のディレクトリ名です。

(*) 「はじめに」内の<Windows® 2000, Windows® XP対応システム一覧> No.10, 11, 12, 14, 34を除きます。

- (2) [J.NET]画面が表示されます。この状態でJ.NETは立ち上がっています。
この後は、目的のコマンドのボタンをクリックしてください。

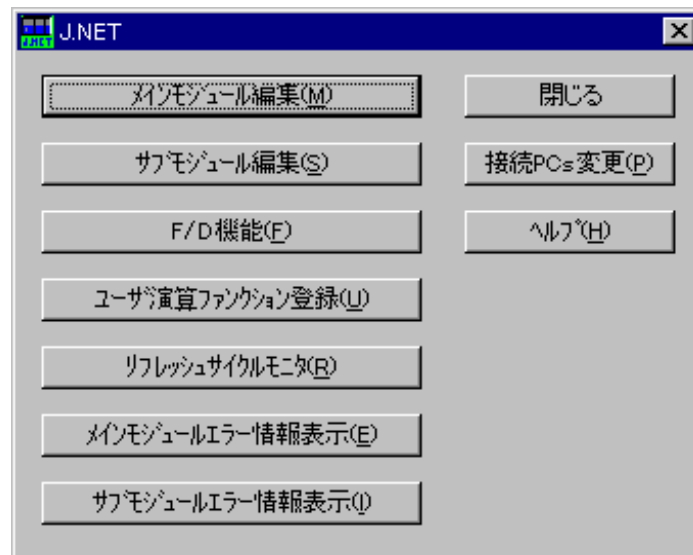


図 2 - 1 [J.NET]画面

2.4 システム終了

[J.NET]画面(図2-1参照)において、 または ボタンをクリックします。

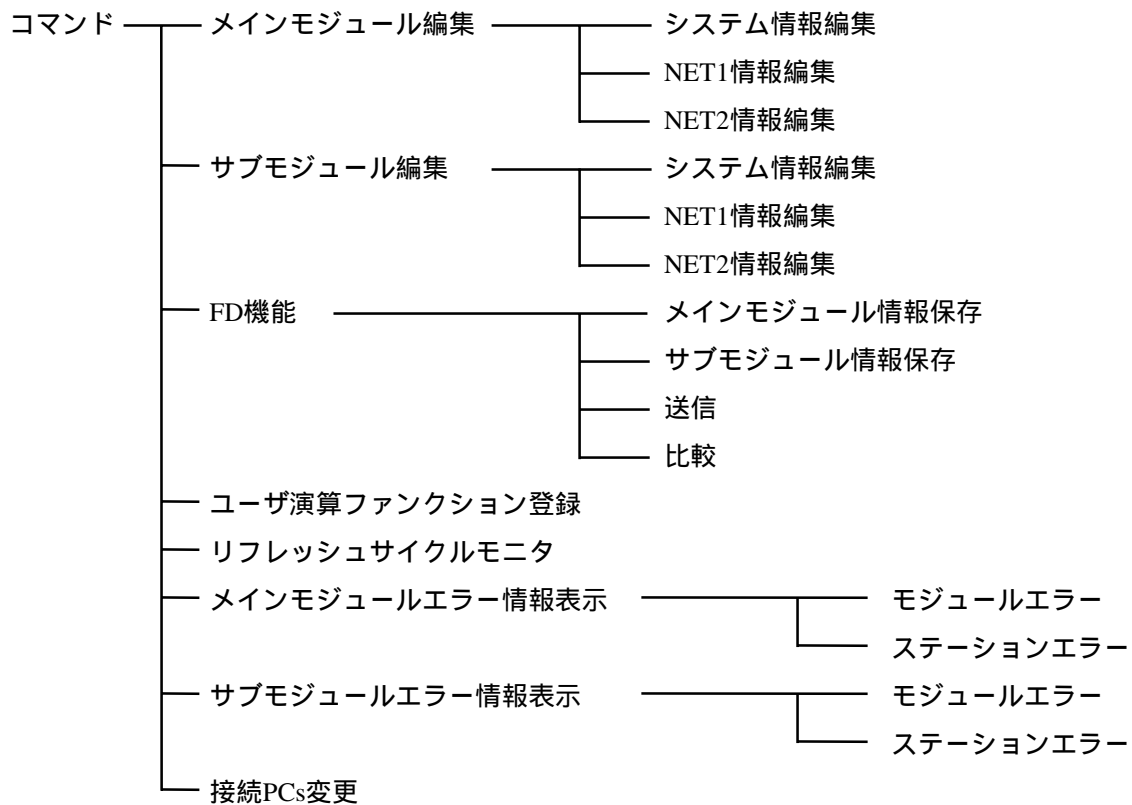
3 コマンド

3 コマンド

3.1 コマンド体系

J.NETのコマンド体系を以下に示します。

コマンドの概要を3.2節以降に示します。コマンドの詳細については、ヘルプを参照してください。



3. 2 メインモジュール編集

機能：メインモジュールのシステム情報編集、NET1情報編集、NET2情報編集を選択およびそれらの編集情報をPCsへ書き込みます。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [J.NET] 画面から、 **メインモジュール編集** ボタンをクリックします。
- (2) [編集] 画面が表示されます。



図 3 - 1 [編集] 画面

- (3) **システム情報編集**、**NET1情報編集**、**NET2情報編集** ボタンクリック時の詳細は、「3. 2. 1 システム情報編集」以降を参照してください。
- (4) (3)のいずれか(または全部)の情報編集後、**OK** ボタンをクリックすると、編集された情報がPCsへ書き込まれます。何も編集せずに、**OK** ボタンをクリックすると、PCsから読み込んだ情報がそのままPCsへ書き込まれます。ただし、編集した情報の中に奇数バイトの設定がある場合、J.NETモジュールのバージョン・レビジョンによっては、PCsへの書き込みが行われない場合があります。表 3 - 1 に示すバージョン・レビジョンより前のJ.NETモジュールでは、奇数バイトの設定がサポートされていません。

表 3 - 1 J.NETモジュール奇数バイト設定サポートバージョン・レビジョン

型式	バージョン	レビジョン
LWE580	2	5
LQE040	1	2
LQE045	1	1

3 コマンド

奇数バイトをサポートしていないJ.NETモジュールに対して、**OK** ボタンをクリックした場合、図 3 - 2 に示す [J.NET] ダイアログボックスが表示されます (J.NETモジュールの型式がLWE580の場合)。



図 3 - 2 [J.NET] ダイアログボックス (奇数バイト設定エラー)

キャンセル または **×** ボタンをクリックすると、PCsへの書き込みを行いません。

3. 2. 1 システム情報編集

機能：メインモジュールのシステム情報を編集します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [編集]画面から、**システム情報編集** ボタンをクリックします。
- (2) [システム情報編集]画面が表示されます。

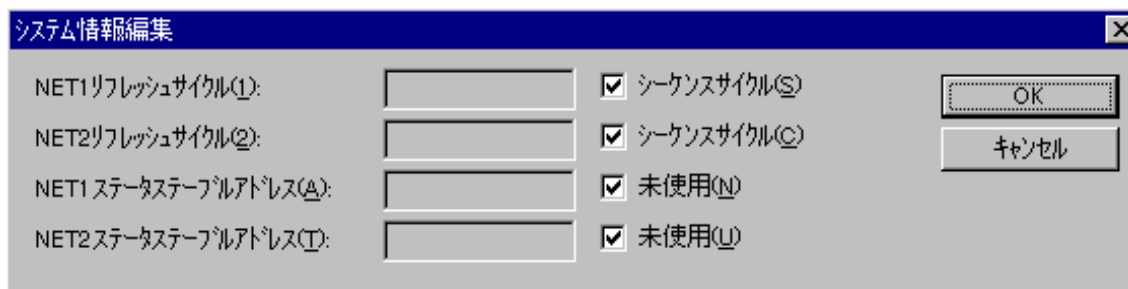


図 3 - 3 [システム情報編集]画面

- (3) 設定が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。設定しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

3. 2. 2 NET1情報編集

機能：メインモジュールのNET1情報の編集をします。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [編集]画面から、**NET1情報編集** ボタンをクリックします。
- (2) [情報編集]画面が表示されます。[確認]画面は、[情報編集]画面の上に重なって表示されます(図3-4参照)。[確認]画面の「このダイアログを次回から表示しない」のチェックボックスにチェックマークを付けると、次回からこの画面は表示されません。ただし、J.NETを再度立ち上げると、[確認]画面が表示されます。

閉じる または **×** ボタンをクリックします。

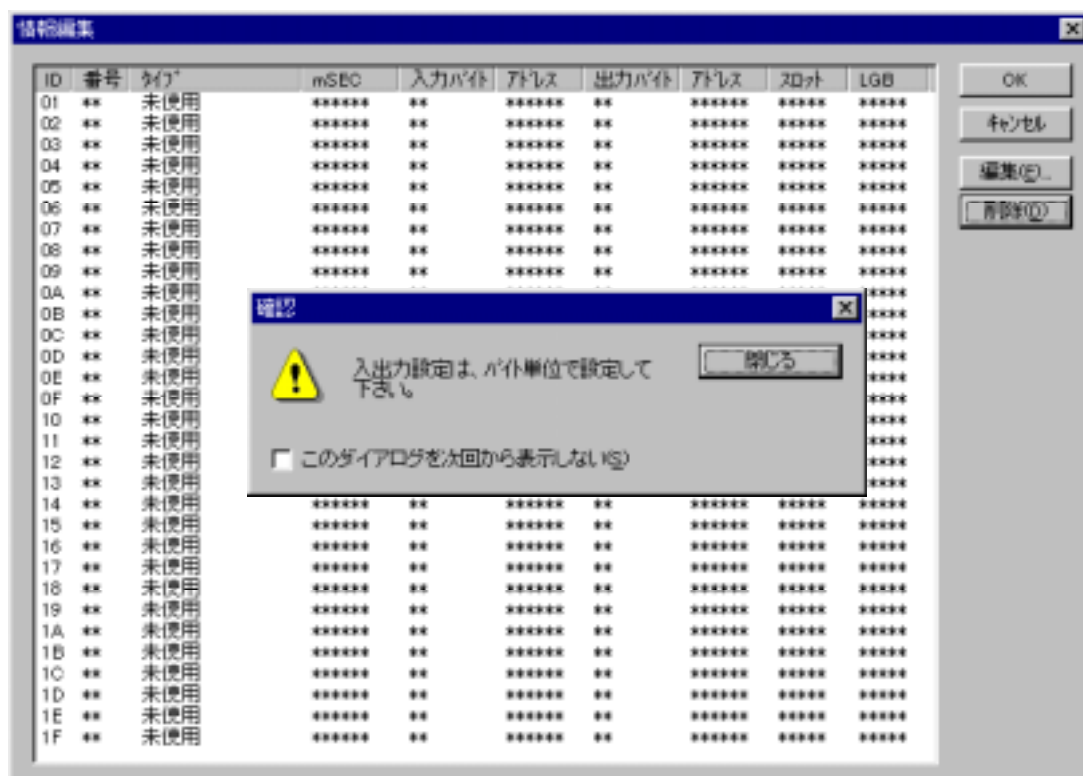


図3-4 [確認]画面と[情報編集]画面

- (3) [確認]画面が消去され、[情報編集]画面がアクティブ状態となります。編集する「ID」をクリックし、**編集** ボタンをクリックします。

3 コマンド

- (4) [編集]画面が表示されます。「ステーション番号」、「ステーションタイプ」および「リフレッシュサイクル」を入力します。



図 3 - 5 [編集]画面

- (5) 「ステーションタイプ」に「I/O」、「I/O+DR/DW」および「J.STATION(EXTENDED)」を選択した場合は、スロット設定ができるようになります。

任意のスロット番号をクリックし、**スロット設定** ボタンをクリックします。

[スロット情報設定] 画面が表示されますので、各項目を設定し、設定が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。設定しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

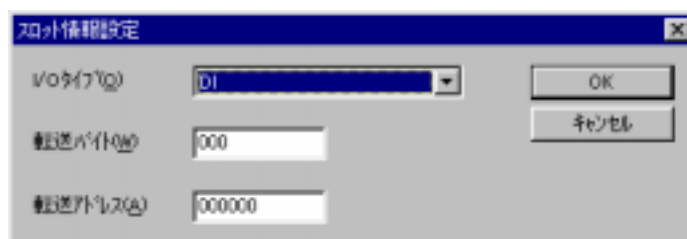


図 3 - 6 [スロット情報設定] 画面

- (6) 「ステーションタイプ」に「J.STATION(EXTENDED)」を選択した場合、「LGB」の各設定ができるようになります。

任意の「編集項目」をクリックし、**LGB設定** ボタンをクリックします。

選択した「編集項目」の設定画面が表示されますので、各項目を設定し、設定が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。設定しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。



図 3 - 7 [伝送フレーム] 画面

- (7) 設定が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。設定しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

3 コマンド

3. 2. 3 NET2情報編集

機能：メインモジュールのNET2情報を編集します。

操作：操作手順はNET1情報編集と同じです。

「3. 2. 2 NET1情報編集」を参照してください。

3. 3 サブモジュール編集

機能：サブモジュールのシステム情報編集、NET1情報編集、NET2情報編集を選択およびそれらの編集情報をPCsへ書き込みます。

操作：操作手順はメインモジュール編集と同じです。

「3. 2 メインモジュール編集」を参照してください。

3. 4 FD機能

機能：メイン、サブモジュールのシステム情報保存、PCsへの送信およびPCsとの比較をします。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [J.NET]画面から、**F/D機能** ボタンをクリックします。
- (2) [F/D]画面が表示されます。

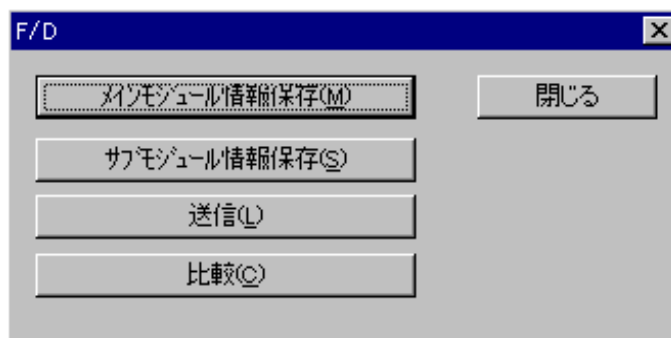


図3 - 8 [F/D]画面

3. 4. 1 メインモジュール情報保存

機能：メインモジュールのシステム情報を保存します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [F/D] 画面から、 **メインモジュール情報保存** ボタンをクリックします。
- (2) [ファイル名を付けて保存] 画面が表示されます。「ファイル名」を入力します。

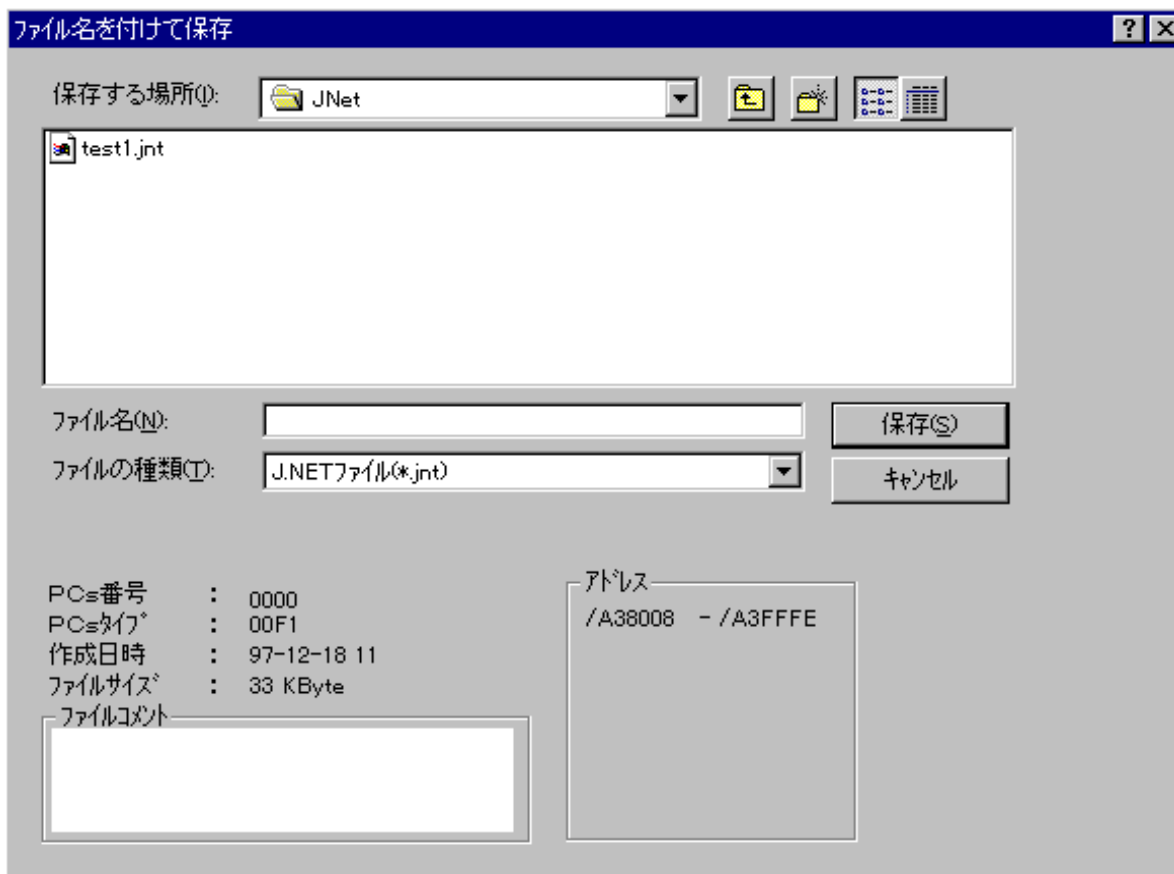


図 3 - 9 [ファイル名を付けて保存] 画面

- (3) 設定が終了したら、 **保存** ボタンをクリックします。保存しない場合は、 **キャンセル** ボタンをクリックします。

3. 4. 2 サブモジュール情報保存

機能：サブモジュールのシステム情報を保存します。

操作：操作手順はメインモジュール情報保存と同じです。

「3. 4. 1 メインモジュール情報保存」を参照してください。

3 コマンド

3.4.3 送信

機能：J.NETシステム情報をPCsへ送信します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [F/D] 画面から、**送信** ボタンをクリックします。
- (2) [ファイルを開く] 画面が表示されます。「ファイル名」を入力します。
ファイルをポインティングデバイスで選択した場合のみ、「PCs番号」、「PCsタイプ」等が表示されます。

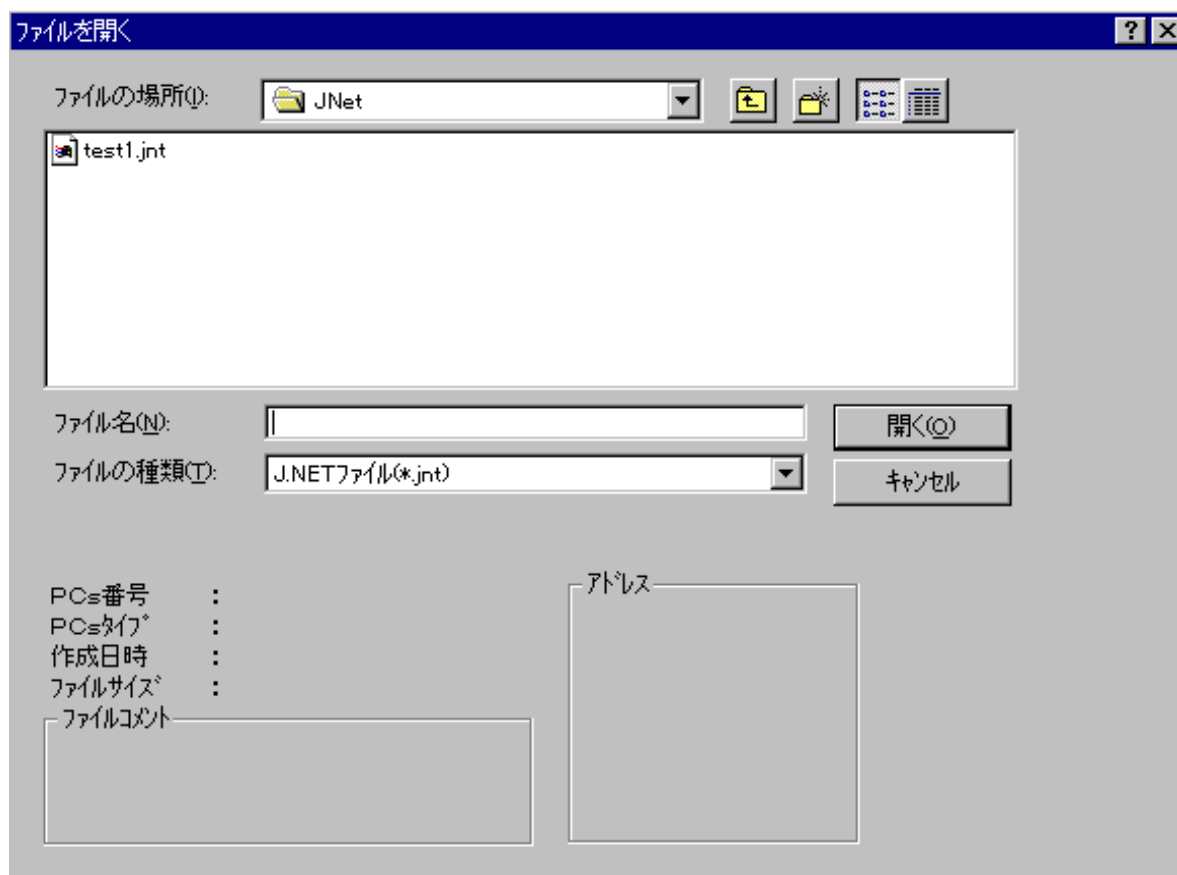


図 3 - 10 [ファイルを開く] 画面

- (3) 設定が終了したら、**開く** ボタンをクリックします（注1）。送信中は、図 3 - 11に示す [ファイル送信] 画面が表示されます（注2）。送信しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。



図 3 - 11 [ファイル送信]画面(システム情報送信中)

(注1) J.NETシステム情報に奇数バイトの設定が含まれている場合、J.NETモジュールのバージョン・レビジョンによっては、送信できないものがあります。表 3 - 2 に示すバージョン・レビジョンよりも前のJ.NETモジュールでは、奇数バイト転送をサポートしていません。

表 3 - 2 奇数バイト送信可能なJ.NETモジュールバージョン・レビジョン

型式	バージョン	レビジョン
LWE580	2	5
LQE040	1	2
LQE045	1	1

送信要求をした場合、図 3 - 12 に示す [J.NET] ダイアログボックスが表示されます (J.NETモジュールの型式がLWE580の場合)。



図 3 - 12 [J.NET] ダイアログボックス(奇数バイト送信未サポートエラー)

(注2) J.NETシステム情報送信中は、**キャンセル** ボタンをクリックしないでください。やむをえず、**キャンセル** ボタンをクリックした場合は、PCsのリセットまたは停復電が必要となります。

3 コマンド

3. 4. 4 比較

機能：J.NETのシステム情報とPCsを比較します。

操作：操作手順は送信と同じです。

「3. 4. 3 送信」を参照してください。

(注) 比較を行った場合、下記のエリアが不一致となる場合があります。不一致箇所がこのエリアのみならば、J.NETシステム情報は、保存したファイルとメモリで一致しています。それ以外に、不一致箇所があれば、保存したファイルとメモリ内容は不一致となります。

J.NETモジュール (Main) 実装..... /A3BFFE

J.NETモジュール (Sub) 実装 /ABBFFE

3. 5 ユーザ演算ファンクション登録

機能：ユーザ演算ファンクションを登録します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [J.NET]画面から、**ユーザ演算ファンクション登録** ボタンをクリックします。
- (2) [演算ファンクションテーブル]画面が表示されます。登録する「番号」をクリックし、**設定** ボタンをクリックします。



図3 - 13 [演算ファンクションテーブル]画面

- (3) [設定]画面が表示されます。「名称」を入力します。

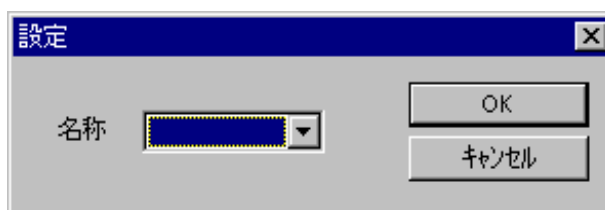


図3 - 14 [設定]画面

- (4) 設定が終了したら、**OK** ボタンをクリックします。設定しない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

3 コマンド

3.6 リフレッシュサイクルモニタ

機能：リフレッシュサイクルをモニタします。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [J.NET]画面から、**リフレッシュサイクルモニタ** ボタンをクリックします。
- (2) [リフレッシュサイクルモニタ]画面が表示されます。

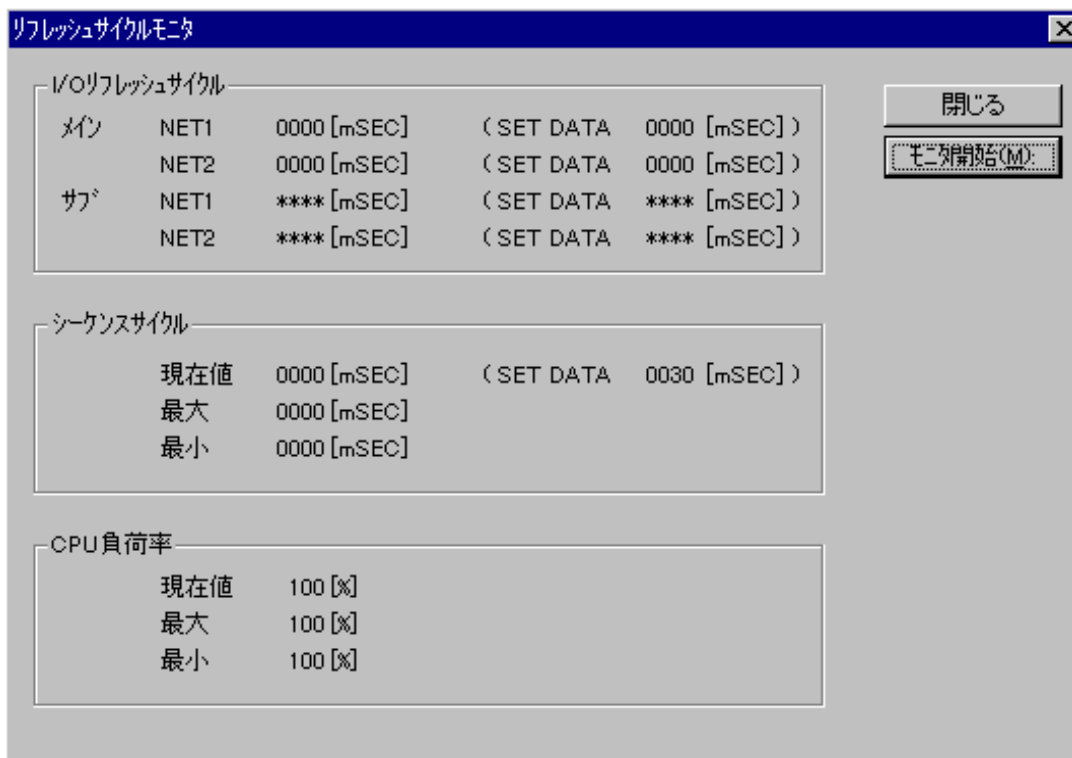


図3 - 15 [リフレッシュサイクルモニタ]画面

- (3) モニタを開始する場合は、**モニタ開始** ボタンをクリックします。また、モニタ状態からモニタを停止する場合は、**モニタ停止** ボタンをクリックします。
モニタを終了する場合は、**閉じる** ボタンをクリックします。

(注) 「CPU負荷率」は、ラダープログラム動作中のみ有効です。

3. 7 メインモジュールエラー情報表示

機能：メインモジュールのエラー情報表示について、モジュールエラー、ステーションエラーを選択します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [J.NET]画面から、**メインモジュールエラー情報表示** ボタンをクリックします。
- (2) [エラー情報]画面が表示されます。

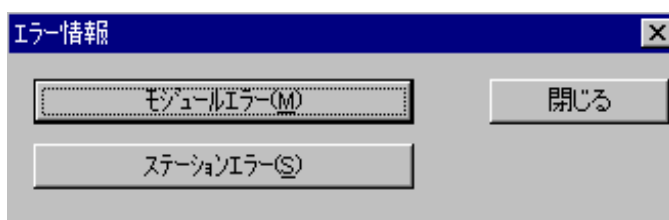


図 3 - 16 [エラー情報]画面

3. 7. 1 モジュールエラー

機能：メインモジュールのエラー情報を表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [エラー情報]画面から、**モジュールエラー** ボタンをクリックします。メインモジュールに異常があった場合、[モジュールエラー]画面が表示されます。

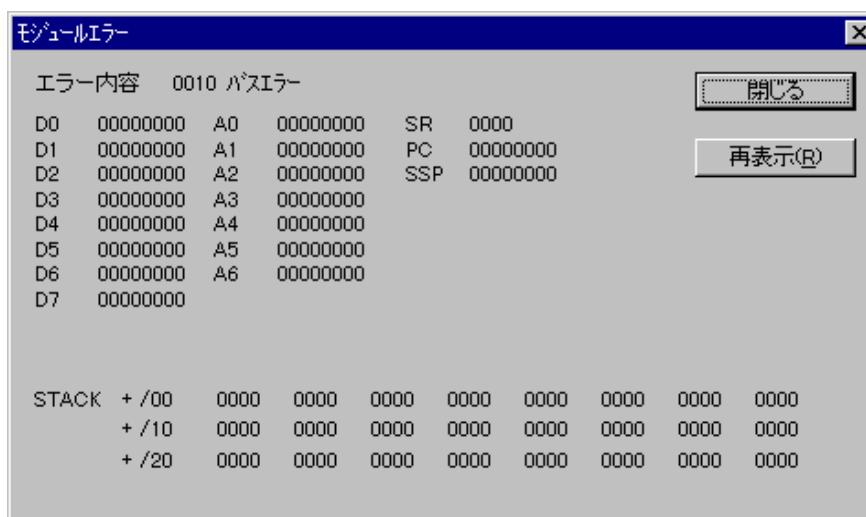


図 3 - 17 [モジュールエラー]画面

- (2) **再表示** ボタンをクリックすると、最新のエラー情報が表示されます。
エラー表示を終了する場合は、**閉じる** ボタンをクリックします。

3 コマンド

3.7.2 ステーションエラー

機能：メインモジュールのステーションエラー情報を表示します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [エラー情報]画面から、**ステーションエラー** ボタンをクリックします。
[ステーションエラー]画面が表示されます。

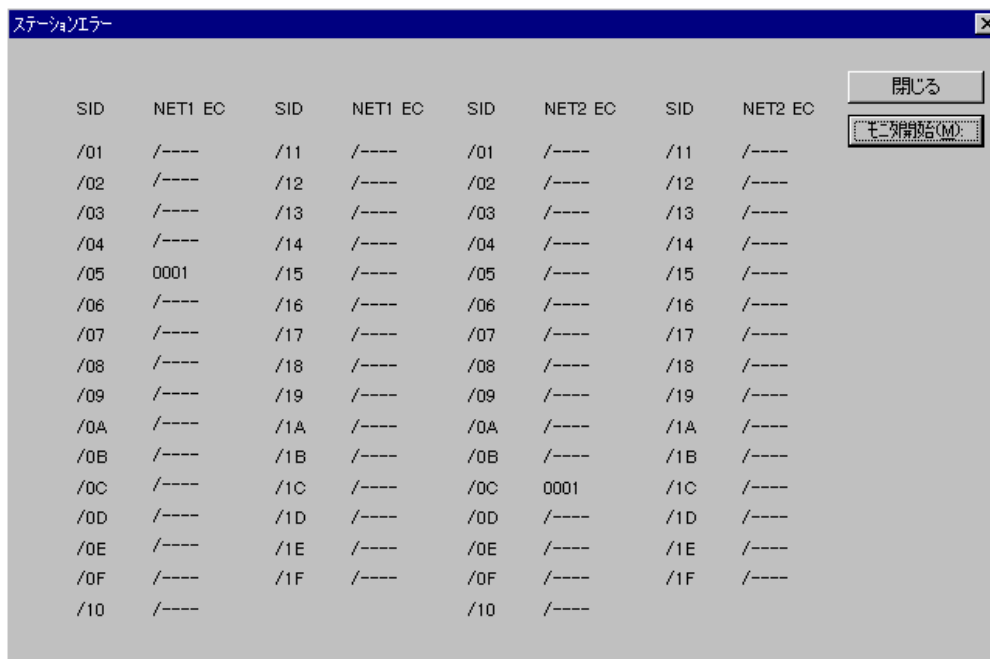


図3 - 18 [ステーションエラー]画面

- (2) モニタを開始する場合は、**モニタ開始** ボタンをクリックします。また、モニタ状態からモニタを停止する場合は、**モニタ停止** ボタンをクリックします。
ステーションエラー情報表示を終了する場合は、**閉じる** ボタンをクリックします。

3.8 サブモジュールエラー情報表示

機能：サブモジュールのエラー情報を表示します。

操作：操作手順はメインモジュールのエラー情報表示と同じです。

「3.7 メインモジュールエラー情報表示」を参照してください。

3.9 接続PCs変更

機能：PCsとパソコンの通信種類を設定します。

操作：以下に操作手順を示します。

- (1) [J.NET] 画面から、 **接続PCs変更** ボタンをクリックします。
- (2) [通信種類] 画面が表示されます。



図3 - 19 [通信種類] 画面 (接続PCs変更)

- (3) 通信種類がRS-232Cの場合、「RS-232C」のラジオボタンをクリックし、「通信ポート」を選択します。



図3 - 20 [通信種類] 画面 (RS-232Cポート選択)

- (4) 通信種類がイーサネットの場合、「イーサネット」のラジオボタンをクリックし、接続先の「IPアドレス」を入力します。



図3 - 21 [通信種類] 画面 (イーサネット接続)

3 コマンド

(5) 通信種類がGP-IBの場合、「 GPIB 」のラジオボタンをクリックします。



図 3 - 22 [通信種類] 画面 (GPIB接続)

注 意

S10miniシリーズとパソコンを接続する場合、S10miniシリーズはGP-IBをサポートしていませんので、RS-232Cまたはイーサネットを選択してください。

(6) 設定が終了したら、 **OK** ボタンをクリックします。設定しない場合は、 **キャンセル** ボタンをクリックします。

ご利用者各位

〒101-8010

東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
株式会社日立製作所

お 願 い

各位にはますますご清栄のことと存じます。

さて、この資料をより良くするために、お気付きの点はどんなことでも結構ですので、
下欄にご記入の上、当社営業担当または当社所員に、お渡しくださいますようお願い申
しあげます。なお、製品開発、サービス、その他についてもご意見を併記して頂ければ
幸甚に存じます。

ご住所 〒	_____
貴会社名 (団体名)	_____
芳名	_____
製品名	_____
ご意見欄	_____ _____